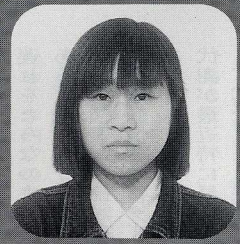


遠さを補うサーブイイスを

総合科学部
地域文化コース三年

古田 智子



PROFILE

地域文化コース比較文化群に所属しています。哲学を軸に、《私》と《他者》を結ぶ《言葉》、そして《世界》、《神々》などについて考えたいと思っています。とりあえずは西洋の思想が中心になるでしょうが、いつかは東洋に、インドや中国や日本に帰ってきたいと思うのですが、道は長いでしょう。

肝心なのはいつも本が手近にあり、必要なときにすぐに手を伸ばせるということ。残念ながら西条に来てからは、本が遠くなってしまいました。広島市内と違って、大きな本屋や県立、市立の図書館がたくさんあるわけでは

ありませんから、大学の図書館が頼りです。理想を言えば、図書館は学部棟に直結しているのがいい。西条キャンパスの広さはその点ではネックになります。中央図書館まで行くとなると、ちよつとした空き時間ではすまないのです。この遠さを補うようなサーブイイスを期待しています。

一 二十四時間、年中無休

ゆつくり本を読む、まとまった調べ物をする、となると、土・日や休日の休館はとても不便です。またコピーサーブイイスは平日の四時四十五分までで、土曜は私費ではできないとのこと。必要なものを探してからコピーするには

余裕がありません。特にレポートを書くときなどには、夜も開いていてほしいと思います。そうでなくても、集中出来ているときには、閉館時間になつて中断されるのは残念です。それに、バスや電車を通っている人は、夜遅くまでいると帰れなくなるでしょう。朝まで図書館にいられたらいいと思いませんか？

二 本の取り寄せ

例えば中央図書館の本を、西図書館で頼んで取り寄せてもらうことが出来ればありがたいのですが、可能でしょうか。

三 開架を多く

普段から眺めていれば、知りたいことが出来たときに「あの本を見れば…」と思いつきます。暇なときに「あれを

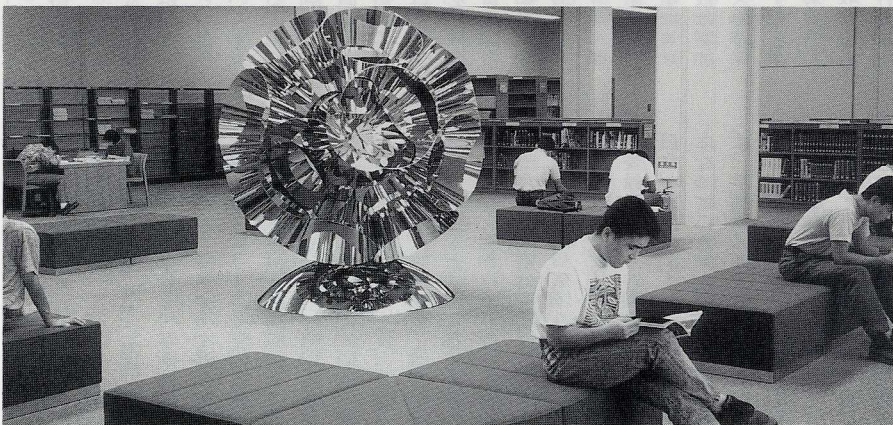
読もう」ということも。検索出来るだけでなく、いつも目につく、手にとつて見られる、ということは、大事なことだと思っています。

四 新しい本、高価な本

みず書房、法政大学出版局、創元社など、おもしろそうだけれども値段の高い学術書がたくさんあります。こうした本を読むことはもちろんですが、どんな本が出版されているのか、いつも知っておくことが出来ればと思います。大きな本屋が近くにないので、図書館に、開架で置いてもらいたいです。

図書館は大学の命です。研究のためにも、気分転換にも。わたし自身まだまだ使い切れていません。利用の仕方、こんなサーブイイスもある、といったことも指導してくださればと思います。

(ふるた・ともこ)



コンテンポラリーアートの展示もある中央図書館1階のアトリウム (前室)